

# 天ヶ瀬ダム再開発事業の背景と目的①：治水

- 琵琶湖周辺や宇治川では、これまで浸水被害が度々発生しています。
- 天ヶ瀬ダム再開発事業により、洪水調節機能の強化を図ります。

## 背景（過去の洪水被害）

□ 琵琶湖周辺や宇治川では、これまで浸水被害が度々発生しています。

発生年月	起因	被害状況
昭和28年9月(1953年9月)	台風13号	死者(不明者含)178人、負傷者194人、全壊流失・半壊676戸、床上・床下浸水56,194戸
昭和34年8月(1959年8月)	前線および台風7号	死者(不明者含)23人、負傷者29人、全壊流失152戸、半壊流失115戸、床上浸水7,949戸、床下浸水44,103戸
昭和34年9月(1959年9月)	台風15号(伊勢湾台風)	死者(不明者含)47人、負傷者353人、全壊流失586戸、半壊流失1,312戸、床上浸水9,927戸、床下浸水27,632戸
昭和36年10月(1961年10月)	前線および台風26号	死者(不明者含)2人、負傷者4人、全壊流失5戸、床上浸水520戸、床下浸水2,209戸
昭和40年9月(1965年9月)	台風24号	死者(不明者含)4人、負傷者106人、全壊流失248戸、半壊流失4,540戸、床上浸水12,238戸、床下浸水58,501戸
昭和57年8月(1982年9月)	台風10号	死者(不明者含)10人、負傷者12人、全壊流失24戸、半壊流失34戸、床上浸水5,573戸、床下浸水5,084戸
平成7年5月(1995年5月)	梅雨前線	床下浸水39戸、田畑埋没流出281.9ha
平成25年9月(2013年9月)	台風18号	死者(不明者含)4人、負傷者24人、全壊流失10戸、半壊流失・一部破損502戸、床上浸水2,211戸、床下浸水4,684戸

※出典：洪水誌、滋賀県災害誌、兵庫県水害誌、淀川・大和川の洪水資料、淀川・大和川の洪水資料(その2)、奈良県気象災害誌、奈良県の気象百年、伊勢湾台風調査、第二室戸台風災害誌、7220号台風災害の概要、近畿水害写真集、朝日新聞・毎日新聞・神戸新聞・他

### ■ 昭和28年9月の台風13号による被害



宇治川の氾濫の様子(京都府久世郡久御山町付近)

### ■ 平成7年5月の梅雨前線による被害



琵琶湖沿岸の浸水被害の様子(滋賀県東近江市付近)

## 事業の目的①：治水（洪水調節機能の強化）

□ 放流能力を増強し、ダムの治水容量をより効率的に活用することで、天ヶ瀬ダムの洪水調節機能を強化します。  
⇒ 最大900m<sup>3</sup>/sの放流能力を、最大1,500m<sup>3</sup>/sに増強

下流に対する効果

□ 水路トンネルができるまで



天ヶ瀬ダムの放流能力が小さく、また下流河道の流下能力も小さいため、ある規模以上の大雨が降ると、洪水をダムに貯めることができなくなります。

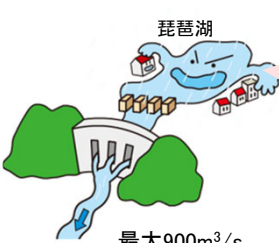
□ 水路トンネルができた後



下流河道の流下能力向上とあわせて、天ヶ瀬ダムからの放流量を安全に増加させることで、洪水時の貯水容量を効率的に活用することができるようになり、宇治川や淀川本川への洪水調節機能が強化されます。

琵琶湖周辺に対する効果

□ 水路トンネルができるまで



天ヶ瀬ダムの放流能力が小さく、琵琶湖の水位低下に時間がかかってしまいます。このため大雨の場合、琵琶湖周辺の洪水被害の可能性があります。

最大900m<sup>3</sup>/s

□ 水路トンネルができた後



天ヶ瀬ダムの放流能力が増加するため、琵琶湖の水位を速やかに低下できます。これにより、大雨の場合琵琶湖周辺の洪水被害軽減が図られます。

最大1,500m<sup>3</sup>/s